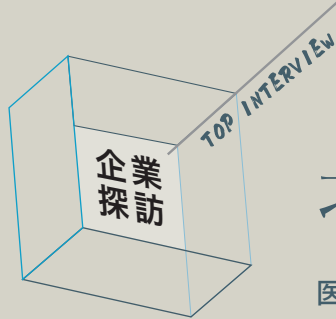




北水会グループ

医療法人社団 北水会 理事長 **平澤 彰子氏**

社会福祉法人 北養会 水戸メディカルカレッジ学校長

医療法人社団 北水会 スイコウ南クリニック院長

大久保 道子氏

所在地 茨城県水戸市東原3-2-1
(スイコウスクエア)

設立 1979年9月

職員数 2024年4月1日現在
2,554名(グループ全体)

事業概要 医療・福祉・教育・健康事業

北水会記念病院



株式会社筑波銀行
水戸営業部長
井ノ崎 昭



筑波総研株式会社
代表取締役社長
木村 伊知郎



医療法人社団 北水会
理事長
平澤 彰子氏



社会福祉法人 北養会
水戸メディカルカレッジ
学校長
医療法人社団 北水会
スイコウ南クリニック
院長
大久保 道子氏

明るい未来社会の創造を目指し
健康、教育、福祉の充実を図ります。



- ①北水会記念病院
- ②在宅療養包括サポート施設 アテンドハウス
- ③サービス付き高齢者向け住宅 アテンドハウス・ウエスト
- ④介護老人保健施設 はなみずき
- ⑤特別養護老人ホーム もくせい
- ⑥救護施設 もくせい

- ⑦認可保育所 スワン保育園
- ⑧医療専門学校 水戸メディカルカレッジ
- ⑨レストラン クローバーダイニング
- ⑩水戸市中央高齢者支援センター
- ⑪店舗 薬局・コンビニ等
- ⑫フィットネスクラブ アクアメディエクス

医療・福祉・教育・健康の複合エリア「スイコウスクエア」

幅広い世代が集う場所として生まれた 「スイコウスクエア」

「北水会」グループのはじまりと、その名前の由来についてお聞かせいただけますか？

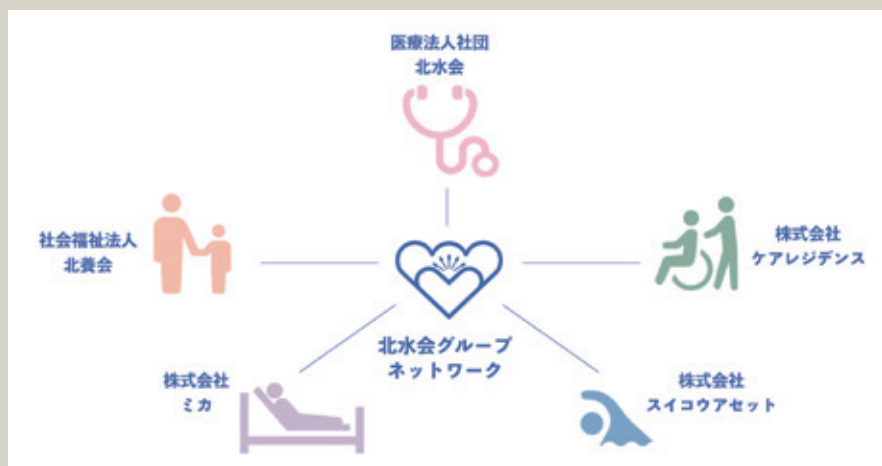
北水会グループは、1979年、創業者の大久保重義が、水戸市河和田町に北水会病院を設立したところからはじまりました。名前の由来は出身大学である北海道大学の「北」と、出身地である茨城県水戸市の「水」を合わせたものです。北水会病院の建物は、いまでもサービス付き高齢者向け住宅「アシステッド・ヴィラかわわだ」として大切に使われています。

スイコウスクエアの中には医療・福祉・教育・健康を兼ね備えた施設が多数あります。一般的には、これだけの施設があれば高層の建物を建設して、その中にさまざまな施設を配置しているケースが多いと思いますが、それぞれの施設が独立した建物になっている理由について教えてくださいませんか？

スイコウスクエアは、旧制水戸高等学校があった敷地を開発し、2009年に誕生しました。43,525㎡の広大な土地に医療・福祉・教育・健康など多くの機能を備え、人々が集い交流する場として北水会グループが立ち上げました。



「スイコウスクエア」の概要について語る
平澤理事長





手術風景



リハビリテーション室

創業者が建築に造詣が深かったこともあり、北水会グループの建物は土地の選定から設計・建築に至るまで、創業者の強いこだわりが詰まっています。スイコウスクエアは特に思い入れが深く、「地域の振興や活性化を図るために幅広い世代が集う場所をつくる」をコンセプトに、エリア全体のデザインから建物の細部にまでこだわって設計してあります。

建物が独立して点在している理由は、将来の建替えに備えているためと聞いています。病院や介護施設は24時間365日、入院患者さんや入居者の方がおられます。建物の周りに駐車場を配置し、建替えの際は、駐車場に新たな建物を建設することで、住み替えをスムーズにすることができます。

また、建物のメンテナンスの際、患者さんや外来の方に負担をかけないようにとの配慮もあったようです。一棟の大きな建物をつくってしまうと、そこにいろいろな施設が入ることになりますから、メンテナンスのときに足場をかけるなど利用者さんに圧迫感を与えてしまいますので、分散して建てたのだと聞いています。

とはいえ、最近は建設費の高騰もあり、今ある建物をいかに長く有効利用するのか、という視点も重要になっています。北水会グループには一級建築士事務所があり、建物のメンテナンスにも力を入れています。

股関節・膝関節疾患などで 質の高い医療を実現

「北水会記念病院」は総合病院としてさまざまな診療科目を設けていらっしゃいますが、そのなかでも股関節疾患、膝関節疾患では全国から患者さんが訪れ手術を行っていると聞いています。その対応のために先般、手術室を増設されたとのことですが、月に何件くらい手術を実施されていますか？また、その後のリハビリはどのようにされているのでしょうか？

当院では、特に股関節疾患、膝関節疾患、肩関節

疾患、骨盤臓器脱疾患の治療において質の高い医療を実現しており、国内外から毎年多数の医師の見学を受け入れています。股関節手術と膝関節手術を合わせると月に約100件、そのほかに肩・肘・手の整形外科手術、泌尿器科の手術を含めると年間2,000件くらいになります。

手術室を5室に増室したことで、より早く安全に手術を提供できるようになりました。手術後は早期回復・早期退院を目指し、可能な限り集中してリハビリテーションを行えるよう理学療法士が術後のフォロー体制を整えています。

スイコウスクエアの誕生時に開設された健診センターについてお聞かせください。

2000年に「健康日本21」という国民健康づくり運動がスタートしたことを受け、北水会記念病院も2009年に水戸市東原に移転する際に新しく健診センターを開設しました。高齢化が進む中で、健康寿命延伸のため、高血圧や糖尿病、メタボリックシンドロームなどの生活習慣病を早期に発見することで、地域の方の健康保持に寄与したいと考えてのことです。近隣の住民の皆さん、各企業の方、施設の入居者さん、当グループの職員など、たくさんの方に健康診断や人間ドックを受診していただいています。

昨年、健診センターを拡大するとともに新しい医療機器も導入し、今では月1,000人以上の方を受け入れることができるようになりました。各市町村の特定健診やがん検診の普及にも力を入れ、また忙しい方にも健診を受けていただきたいという思いもあり、より受診しやすい環境づくりを目指し日々改善に努めています。

茨城県でいち早く介護施設を整備

スイコウスクエアには福祉関係の施設として、社会福祉法人北養会が運営する介護老人保健施設(老健)「はなみずき」、特別養護老人ホーム(特養)



北水会記念病院1階にある「健診センター」



特養、救護施設の機能を持つ「もくせい」

「もくせい」、救護施設「もくせい」、サービス付き高齢者向け住宅(サ高住)「アテンドハウス・ウエスト」があります。「もくせい」や「はなみずき」といった花の名前を用いたネーミングの由来、それぞれの施設の役割などを教えてください。

これまでに建てた施設には、水戸市河和田町の老健「くるみ館」や水戸市鯉淵町の特養「もみじ館」、東京都荒川区には同じく特養の「さくら館」があり、植物に由来した名前を好んでいました。しかし「・・・館」という呼び方は少し硬い印象があります。そこでスイコウスクエアの施設には「はなみずき」「もくせい」など花の名前を使用し、万人に親しまれる優しい名前にしました。利用者さんやご家族からも覚えやすいと好評です。

それぞれの施設の役割ですが、老健「はなみずき」は退院した方が在宅復帰に向けてリハビリテーションを集中的に行う施設です。特養「もくせい」は介護の必要な高齢者の生活の場となる施設、救護施設「もくせい」は障がい者の生活の場となる施設です。サ高住「アテンドハウス・ウエスト」は、高齢で家族が離れて暮らしている方や生活に何らかの支障をきたすようになった方が安心して生活を送れるようサポートが付いた施設です。

北水会グループは、スイコウスクエアのほかにも介護付有料老人ホームや大規模デイサービス等、多くの施設を保有していますが、これらの施設と医療との連携について教えてください。

「ケアレジデンス水戸本館」は、1985年に、創業者が茨城県ではじめて建設した介護付有料老人ホームです。まだ介護保険が無かった時代で、病院を退院したあと、介護を必要とする方が暮らす場所がなかったことがきっかけだったと聞いています。介護を必要とする方、リハビリテーションを必要とする方、看護サービスを必要とする方が安心して暮らすことができる施設をつくりたいとの思いから、北水会病院が医療面のサポートを行い、看護師や介護福祉士が生活を支える仕組

みをつくりました。老健の「くるみ館」も茨城県初ということで、他に先駆けて介護施設をつくってきたことも、北水会グループの特色と考えています。

また、健康で元気に長生きすることを目的とした高齢者のためのデイサービスとして、「コミュニティガーデン」という大規模デイサービスを展開しています。茨城県内には水戸市、東海村、つくば市の3か所、東京都内には江戸川区2か所、荒川区1か所があります。リハビリテーション室や20mプールを備えた施設もあり、毎日500名を超える利用者が元気に通っています。

2009年に北水会病院をスイコウスクエアに移転する際に、患者さんの移動手段として送迎車を導入しましたが、今では自宅からスイコウスクエアの施設、スイコウスクエアからコミュニティガーデン等の施設への移動手段として、送迎車が活躍しています。北水会のグループカラーである緑色に金色の文字の入った送迎車約400台が稼働しており、たくさんの方にご利用いただいています。また、スイコウスクエア内の北水会記念病院前ロータリーには路線バスの停留所もあり、水戸駅や各施設へのアクセスがしやすくなっています。

医療と介護や福祉の連携を推進するため、北水会記念病院には医療介護連携相談室という部署があります。専門知識の豊富なスタッフが病院を退院する方や外来で介護を必要とする方へのサポートを行ない、北水会グループの施設や近隣の医療介護福祉サービスへタイムリーにつなげられるようにしています。



大規模デイサービス「コミュニティガーデンつくば」



スイコウスクエアの誕生に合わせて導入された送迎車

また、スイコウスクエアには水戸市の高齢者支援センターがあり、地域の高齢者の方やご家族からの様々な相談を受け支援をしています。お互いに連携することで、地域の方が安心して生活できる環境を提供していきたいと思っています。

地域の医療充実と リハビリテーションの専門家育成

スイコウスクエアの中には、教育関係の施設として同じく社会福祉法人北養会が運営する医療専門学校「水戸メディカルカレッジ」、認可保育所「スワン保育園」があります。水戸メディカルカレッジは理学療法士、言語聴覚士、看護師を養成する学校とお聞きしていますが、卒業生はどのような活躍をされていますか？

創業者は、「地域の医療の充実とリハビリテーションレベルを高める専門家をたくさん育てていくことが使命」と言っていましたが、「水戸メディカルカレッジ」は、茨城県央と県北地域における医療リハビリテーション専門職の人手不足を解消し、病気や事故、加齢により運動能力が低下しても自分らしい生活が継続できるサポート体制の構築を目的として設立しました。

同校は3年制の医療専門学校で、それぞれ理学療法士40名、言語聴覚士40名、看護師40名で1学年



「メディカルカレッジ」の概要について語る大久保学校長



「水戸メディカルカレッジ」の実習風景

120名です。毎年国家試験を受け、合格すると茨城県内の病院や介護福祉施設に就職しています。

北水会記念病院では、整形外科の股関節、膝関節、肩・肘・手関節の手術において高い実績があり、術後のリハビリテーションにも力を入れています。卒業生の多くが同病院に在籍し、患者さんの運動器リハビリテーションを担当しています。また、リハビリテーション科では脳卒中による身体障害や高次脳機能障害の患者さんに対して脳血管リハビリテーション、内科では肺炎や尿路感染症、心不全で入院した患者さんの廃用症候群を防ぐためのリハビリテーションなども担当しています。

スポーツ選手へのサポートにも力を入れており、いわゆるアスリートリハビリテーションも行っています。茨城県に本拠地のあるバスケットボールチーム「茨城ロボッツ」の協力病院をしていますので、バスケットボール選手のリハビリも担当しています。また、地元の高校野球部の生徒や保護者に対する市民講座の開催や、実際に部活に帯同してケガをしないための指導なども行っています。

もう一つの特徴として、北水会記念病院には小児の発達障害専門外来があります。近年、言葉が増えない、落ち着きがない、周囲と適応できないといった子どもが増えています。言語聴覚士は自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症、学習障害などの子どもたちに小児言語リハビリテーションを行っています。

水戸メディカルカレッジで専門職を育成することは、地域の医療・福祉を支える上でとても意味があると考えています。北水会記念病院の医師やスタッフが学校で講義を行ったり、院内で実習指導を担当したりするなど、協力して医療福祉を担う人材の育成に力を注いでいます。近年では、少子化の影響で医療職を目指す学生が減少傾向にあり、医療介護分野の人材不足がより深刻になると危惧しており、北水会グループでは奨学金制度を創設し、学生生活の支援も行っています。

多彩なカリキュラムの保育施設 学童保育も実施

スワン保育園では専門講師による英会話を実施したり、高齢者施設の方とのふれ合いの場を設けたりと、いろいろなカリキュラムを取り入れているのですが、どのような子どもの育成を目指されているのでしょうか？

「スワン保育園」は、茨城県内の水戸市に2か所、つくば市に1か所の3園があり、スイコウスクエア内のスワン保育園は定員90名です。一時保育や病児保育も実施しています。医療介護に携わる職員は女性も多く、エリア内の職員の子どもも通っています。

保育園のカリキュラムには通常の保育園行事以外にも、子どもたちにたくましく生き抜くための知恵を備え、さまざまな経験を積んでほしいという思いから、ネイティブの英語教育、エリア内のスポーツジムでの水泳や体操教育、グループの保有する畑での食育指導など、さまざまなプログラムを組んでいます。

また、施設の高齢者との交流会や、言語聴覚士による言葉の指導など、北水会グループならではのかかわりもあります。小さい頃から高齢者と接することは人との接し方や思いやりを学ぶよい機会になります。

スイコウスクエアのエリア外にはなりますが、卒園した園児が小学生になってからもサポートしてほしいという要望があり、「スワンキッズクラブ」という学童保育も開設しました。現在、水戸市内に2か所あり、同じ建物にある習い事教室を選べるようになっています。

ピアノや習字、英会話、料理、プログラミング、水泳などがあり、子どもたちは下校後におやつを食べて宿題をして、そのあとは好きなプログラムをして過ごします。働いている保護者は時間的に送り迎えが厳しいことも多く、大変好評をいただいています。子どもが学び育つ環境がなければ親は安心して働くことができません。私の子どももスワン保育園とスワンキッズクラブに通い、今でもその時の友達との関係が続いています。



エリア内でフィットネスも おいしい食事も

スイコウスクエアの中には健康関係施設として、株式会社スイコウアセットが運営するフィットネスクラブ「アクアメディエクス」、レストラン・セントラルキッチンの「クローバーダイニング」があります。アクアメディエクスには、マシン、プールなど健康増進用の設備がありますが、これらの施設はスイコウスクエアの入居者が利用するのですか？また、クローバーダイニングにはどのような設備があるのでしょうか？

「アクアメディエクス」は総合型フィットネスクラブで会員の方はどなたでも利用することができます。適度な運動やスポーツを楽しめる環境を整え、健康づくりを支援したいとの思いで開設しました。会員は近隣にお住いの方が多いですが、当グループの職員も、仕事帰りにジムやプール、ヨガやピラティスを楽しむことができ、施設内のスパも好評です。スイコウスクエアのコンセプトである「地域の振興と活性化」を目指し、小さな子どもから高齢者まで幅広い世代が集い、活力を生む場としての役割を果たしています。また、フィジカルケアトレーニングとして、北水会記念病院の医師とアクアメディエクスのフィジカルセラピストが連携して、肩、肘、手首、腰、膝、股関節、足首などの痛みを抱えている方に身体の状態に合わせた効率の良いトレーニングも提供しています。

クローバーダイニングはセントラルキッチンの機能を有しており、大人数の食事をまとめて調理し、北水会グループの各施設に配送しています。社会福祉法人北養会理事長の大久保泰子が以前、オーストラリアの総合医療福祉施設「クイーンエリザベスセンター」に視察に行った際、セントラルキッチンの考え方を学び、北水会グループに導入したものです。たくさんの食事を安全に提供することができる仕組みを取り入れ、現在はHACCP認証を取得し衛生面にも配慮しています。

「スワン保育園」で行われている食育指導

レストラン「クローバーダイニング」はスイコウスクエアの入居者の方が利用するのですか？

レストランは誰でも利用していただけます。創業者の言葉に「人は人のいるところに集まる。人の集まるところには美味しい食事がある」とあります。人の生活にコミュニティはとても大切です。レストランをスイコウスクエアの中心にすることで、そこにさまざまな人が集います。美味しい食事を楽しみながら交流を深めることのできる場所となっており、当グループの職員も利用しています。

スタッフの自己研鑽、 キャリアアップを後押し

これだけの施設を運営されているので、従業員さんの確保や教育研修などは大変苦労されていることと思います。どのようにされているのか教えてください。

北水会グループには1997年から水戸市鯉淵町に「いばらき中央福祉専門学校」という介護福祉士の専門学校があります。たくさんの卒業生が北水会グループに就職していますし、専門学校の先生にもなっています。学生のうちは充実した教育を受けられますが、就職すると新しい知識を得る時間と場所がなくなってきます。そのような声から生まれたのがSTEPという研修システムです。日々現場にいるスタッフが指導者にもなり、研修者にもなります。現在はオンラインも活用し、移動時間がなくタイムリーに研修を受けられるようになっています。

3年前からキャリアパス制度も導入し、今年は100名を超えるスタッフが昇級試験を受けました。学会活動にも積極的に参加するスタッフがおおり、今後も学び続けることのできる環境を整えていきたいと考えています。

また、いばらき中央福祉専門学校では数年前から国内や海外の日本語学校とも連携し、留学生を受け入れています。日本語教師からの指導も含め、就職後も手厚い支援を行う体制を整えています。



介護福祉士を育成する「いばらき中央福祉専門学校」

女性が活躍できるグループに

北水会グループさんでは多くの女性が働いているという印象がありますが、いかがでしょうか？

北水会グループでは、2,554名の職員が働いています。(2024年4月1日現在)。その内訳は女性が1,735名、男性が819名です。医療・介護の現場はもともと女性が多いのですが、当グループでも多くの女性が多様な職種で活躍しています。育児休業制度や保育所の整備など、女性が働きやすい制度や職場環境づくりに努めています。ちなみに2023年度、女性の育休取得率は100%になっています。



北水会グループでは多くの女性職員が活躍

持続可能な社会の実現に向け 社会課題の解決に取り組む

北水会グループさんはSDGsにも積極的に取り組んでいらっしゃると思いますが、どのようなことをされていますか？

北水会グループは基本理念に基づき、持続可能な社会の実現に向け、有する社会資源の活用はもちろん、行政、NPO法人等と連携して社会の課題解決に総合的に取り組んでいます。

その一つとして、エネルギー対策による省エネに取り組んでいます。エリア外では以前から太陽光発電に取り組んでいますが、エリア内の建物はAi-Glies(アイグリーズ)という空調を制御するシステムを導入し、快適な室温を保ちながら節電ができるようになりました。その結果、使用電気量は想定より削減されています。また、カーボンレスの推進のため、ペットボトルの再利用や資源ごみのリサイクルとして食物残渣を肥料にする仕組みを取り入れています。

地域とスイコウスクエアをつなぐイベント
「スイコウパーク」



「事業や仕事が社会に必要と されているかを常に自問自答する」

北水会病院さんを設立して45年、スイコウスクエアをスタートさせて15年、地域医療に欠かせない存在ですが、今後の展開について何かございましたらお話しいただけますか？

45年前に北水会病院がはじまり、当時から通ってくださっている方が今も外来に来られますが、時代と共に社会情勢や患者さんのニーズも変化しています。病院では回復期リハビリテーション病棟や通所リハビリテーション、整形外科や泌尿器科の専門外来と手術治療、小児の言語リハビリテーション、健診センターなど、地域の中で必要とされる機能を増やしてきました。

また、介護施設では入居している方が快適な日常生活を過ごせるように、利用者さんの寝返りや呼吸、脈拍などの体動を検出する「眠りスキャン」をはじめとするICTの導入を進めています。ICTの導入は、職員の介護技術の向上や負担軽減にもつながっています。

グループ内のシステムのデジタル化が進むなか、北水会グループでは2名のシステムエンジニアがシステムの管理を行っています。現場のニーズに対応して便利なシステムも独自につくってくれるのでとても助かっています。サイバー攻撃により電子カルテを乗っ取られるという事例もありますので、サイバーセキュリティにも力を入れ、グループ内のPCはすべてセキュリティ対策を取っています。

さらに、病院や福祉施設は災害の発生時に地域住民の拠り所にもなることから、地域に根ざしたグループとして災害時にも業務を継続できるように、BCP(事業継続計画)を策定し訓練を定期的に行うなど、グループ全体で対策に取り組んでいます。

創業者の「事業や仕事が社会に必要とされているか

を常に自問自答する」という言葉があります。今後も地域で必要とされる機能を果たせるように設備や機能を充実させていきたいと考えています。

地域の方々との関わりを深める取り組みとしては、必要な方にさまざまな形で情報を届けられるように広報室を設け、ホームページによる情報提供やSNSへの発信も積極的に行っています。また、気軽にスイコウスクエアに来ていただけるよう、1年前から「スイコウパーク」というイベントを始めました。子どもが楽しみながら医療を体験できるブースや施設に入居している利用者さんのアート作品の展示など、広報室を中心に介護スタッフや事務スタッフ、相談員や看護師が企画し運営しています。専門学校 학생さんのボランティアや地域の飲食店なども出店してくださりととても楽しいイベントになっています。

このような取り組みははじまったばかりですが、これからも多世代が交流する場としてのスイコウスクエアを地域の方々と共につくっていききたいと考えています。

本日はお忙しい中、姉妹でインタビューに応じていただきありがとうございました。



インタビュー日/2024年11月20日
(聞き手：筑波総研株式会社 代表取締役社長 木村伊知郎)
取引支店：株式会社筑波銀行 水戸営業部